

※()内は1人あたり額。

予算総額 **48億6509万円**

収支差引額
6180万円
(7,547円)

積立金より繰り入れ **1億3820万円**

その他の収入 **8111万円**(9,904円)
国からの交付金等

その他経常収入 **1078万円**(1,316円)
施設利用料等

保険料収入 **46億3500万円**(565,934円)
みなさんの毎月の給料や賞与から納めていただく、
健保組合の主たる財源

予算基礎数値		対前年度予算	
被保険者数	8,190人	+124人	
平均標準報酬月額	393,278円	+3,540円	
保険料率	事業主	54.75/1000	—
	被保険者	38.25/1000	—
	合計	93.00/1000	—

収入

医療費の増加を見込むも

健康保険料率は維持へ

予備費 **2億円**
不意の支出に備えるための費用

その他の支出 **7641万円**(9,329円)
財政調整事業拠出金等

事務費・その他経常支出 **6761万円**(8,254円)
健保組合の事務費用、連合会費など

保健事業費 **1億2130万円**(14,811円)
がん検診・歯科健診・人間ドックの補助など、みなさんの健康に役立てていただくための事業

国への納付金 **21億4917万円**(262,414円)
高齢者医療を支えるための財源として健保組合が国へ負担する費用

保険給付額 **22億5060万円**(274,799円)
みなさんが受けた医療や出産、死亡、休業に対しての給付費用

保険料収入の
2.6%に相当

保険料収入の
46.4%に相当

保険料収入の
48.6%に相当

支出

2023年度予算 ● 介護保険

予算基礎数値

徴収対象 40歳以上(第2号被保険者)人数	4,397人	
平均標準報酬月額	436,608円	
保険料率	事業主	8.75/1000
	被保険者	8.75/1000
	合計	17.50/1000

収入

介護保険収入	5億3200万円
その他の収入	0万円
合計	5億3200万円

支出

介護納付金	5億5906万円
その他の支出	530万円
合計	5億6436万円

準備金より繰り入れ	3236万円
-----------	--------

介護勘定

介護保険の予算総額は5億3200万円となりました。主な支出となる介護納付金は、5億5906万円を見込んでいます。今年度は赤字となりますが、不足分は準備金より繰り入れて対応いたします。

予算のポイント

保険料率は前年度と同じ**93.0%**

みなさんと会社からいただく保険料収入は被保険者数や標準報酬月額の増加を見込み、前年度より2.8%増の46億3500万円を見込み、2年連続の経費黒字の予算となりました。

保険給付費は前年度より**7.5%**増

みなさんへの保険給付費は、前年度より7.5%増の22億5060万円を見込みました。

納付金はほぼ前年度並み

国への納付金は65歳以上75歳未満の医療費を支える前期高齢者納付金が前年度より11.8%減少するものの、後期高齢者支援金が前年度より13.1%増加するため、全体では0.2%増の21億4917万円を見込みました。

納付金の負担増が現役世代を直撃

健保組合を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、2025年には団塊の世代がすべて後期高齢者となることとなる納付金の急増が危惧されています。昨年10月より、一定所得以上の後期高齢者の医療費窓口負担割合が2割に引き上げられました。現役世代の負担軽減効果は不十分です。少子高齢化にも歯止めがかからず、2042年には高齢者人口がピークを迎える一方で、国民皆保険制度の支え手である現役世代の人口は減少が続いています。国民皆保険制度の持続性確保のためにも、全世代型社会保障制度への転換が急がれます。